

令和3年度 第1学年授業改善推進プラン

府中市立若松小学校

<第1学年の実態>

- ・学校生活に慣れ、学習規律を守り、様々な活動に意欲的に取り組んでいる。
- ・相手の立場を考えて話したり、行動したりすることに個人差があるが、相手を思いやり、すすんで親切な行動を取ることができている。

教科	現状の課題	具体的な改善のための方策	自己評価 (A B C D)	
			2学期	3学期
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文や説明文を読む時に、物事の順番に気を付けて読む力を高める必要がある。 ・物事を順序立てて話したり、自分の思いや考えを相手に分かりやすく話したりする力を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や読書を積極的に行い、語彙を増やすほか、主語や述語、大切な言葉を見付け、想像を広げて読むことができるように指導する。ワークシートを活用し、文章の構成を確認しながら学習を進めていく。 ・相手への意識をもたせるようにする。また、発言するときの話型を提示し、話し方の見本を示す。 	B	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数の概念の理解について個人差があるので、概念を豊かにする必要がある。 ・問題文を正しく読み取ったり、立式をしたりする力を育む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックなどの半具体物を用いた活動を通して、数についての感覚を豊かにする。 ・場面絵や作図を通して、加法及び減法の意味を理解し、立式することができるようにする。そのためにも、書画カメラやデジタル教科書などのICT機器を活用し、視覚的に分かりやすく提示する。 	B	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・植物を育てたり、手作りのおもちゃで遊んだりして、四季の変化を感じるなどして、直接体験を充実させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝顔やひまわりの栽培、おもちゃの製作、虫取りやどんぐり拾い、作品作り等を通して自然と関わることで四季を感じるとともに、協働する活動を通して自分たちの生活や遊びをよりよくすることができるようにする。 	A	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・打楽器をリズムよく演奏したり、簡単な曲を正しい指使いで演奏したりできるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体全体を使ったりリズム遊びを通して、正しいリズムが身に付くようにする。指遊びを取り入れることで、指の動きをスムーズにし、鍵盤ハーモニカの演奏につなげる。 	B	
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・図工に対して不安感や苦手意識に対する個人差があるので、自分の思いや考えをもち、表現できるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想を広げやすいように、基本的な技法や用具の使い方を提示する。 ・いろいろな材料を用意し、色や形の面白さを感じさせてイメージをふくらませ、作品に工夫して表せるように声掛けをする。 	A	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と関わりながら体を動かすことを好んでいるが、苦手な運動遊びもあるので、学びの中で楽しみながら技能を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動遊びの場を設け、体を動かす楽しさを増やしていく。学習カードを活用し、自分に合った練習の場を選んだり、自分で工夫したりできるようにする。 	B	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や集団との関わりに目を向け、よりよい関係をつくらうとする気持ちや意欲を育てていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の特定の場面から離れた後、今までの自分自身を振り返らせる指導を行い、自分たちの生活の様々な場面で道徳的価値が生かされていることをつかませ、これからの自分の行動に生かせるようにする。 	B	

※自己評価について A・・・十分に達成できている B・・・達成できている C・・・あまり達成できていない D・・・達成できていない

令和3年度 第2学年授業改善推進プラン

府中市立若松小学校

<第2学年の実態> ・ 同年代や上級生、下級生、地域の方との関わりを楽しみにし、礼儀正しく接することができる。 ・ 授業中、登場人物の気持ちを想像し、すすんで発表することに課題がある。 ・ 分からないことをそのままにせず、質問をしたり、分かるまで努力を続けたりする粘り強さがある。				
教科	現状の課題	具体的な改善プラン	自己評価 (A B C D)	
			2学期	3学期
国語	・ 自分の思いを文章に表現する力を育成していく。 ・ 自分の思いや考えをもち、自分なりの言葉で発表する力を伸ばしていく必要がある。	・ 自分の考え等を文章に表現する場を多く設けていく。 ・ 物語などを読む中で、内容や感想を伝え合う活動を取り入れていく。その際に、互いの思いや考えを受容する雰囲気をつくる工夫をする。	A	
算数	・ 繰り上がり、繰り下がり計算のやり方を確実に定着させる必要がある。 ・ 時間を計算する力を伸ばす必要がある。 ・ 問題に対する解決策など、自分の考えをノートにまとめたり、発表したりする力を育成する。	・ 正しい筆算の書き方を繰り返し指導し、練習させていく。 ・ 授業時だけでなく、日常生活でも時計を読んだり、時間を計算したりする場面を用意する。 ・ 言葉や数、式、図など様々な表現方法を用いて解決策を考えさせ、それをICTを活用して全体で共有する。	B	
生活	・ より良い活動になるように工夫する力を伸ばす必要がある。 ・ 身近な街の様子に気づいたり、特徴をとらえたりする力を育成する必要がある。	・ 学校探検で、1年生に色々な教室を紹介する活動では、3回の発表を通して、より良い発表になるように工夫させる。 ・ 3密になることを防ぎながら、フィールドワーク等の体験活動を取り入れ、浅間山の自然と触れ合うなど、自分と身近な人々や社会などへの関心をもたせる。	B	
音楽	・ 個別指導を通して指奏法を練習して、鍵盤ハーモニカの指使いを習得できるようにする必要がある。	・ 授業中の個別指導を指番号を意識させながら丁寧に行う。 ・ 授業時間外においても、担任の言葉掛け等の個別指導を行う。個別指導、家庭学習などを通して繰り返し練習し、定着を図る。	B	
図工	・ 色塗りや紙を切る、折るなどの細かな作業を取り組む力を付けていく。 ・ 自分の表現したいことをどのように表現したらよいか支援していく必要がある。	・ 書画カメラを用いて一つ一つの動きを確認したり、個別に支援したりしていく。 ・ 児童の発想を大切に、実現できるように支援するために、何を表現したいのかをつかみ、アドバイスできるように支援していく。	A	
体育	・ 運動ができる児童とできない児童の差が大きく、自分の課題を決めて運動に取り組む必要がある。	・ 細かく分析した動きを掲示するなどして、児童が自分の課題を明確にしやすくする。 ・ 児童同士で運動を見合ったり、教え合ったりする活動を充実させる。	B	
道徳	・ 教材の登場人物の行動や心情を自分事として捉える力を伸ばす必要がある。	・ 動作化や役割演技を取り入れ、主人公の心情に迫れるようにする。 ・ 発問を工夫し、価値の一般化を図る。	B	

※自己評価について A・・・十分に達成できている B・・・達成できている C・・・あまり達成できていない D・・・達成できていない

令和3年度 第3学年授業改善推進プラン

府中市立若松小学校

<第3学年の実態> ・新しく始まる学習に興味深く取り組むことができる、前向きで明るい児童が多い。 ・観察や実験、フィールドワークなどの協働的な学習を楽しみにし、意欲的に取り組む。 ・自分の経験したことや考えたことについて話したり聞いたりする力に個人差が見られる。				
教科	現状の課題	具体的な改善プラン	自己評価（A B C D）	
			2学期	3学期
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や言語の定着を図る必要がある。 ・「話し方」や「聞き方」を身に付け、話し合いを深める力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な場面で既習漢字を用いる活動を取り入れ、漢字や文章を書く機会を増やす。 ・日常生活の中で、「話し方・聞き方」の指導を継続的に行っていく。手本となる児童を取り上げ、見本を示すことで良い行いを意識させるようにする。 	B	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく学ぶことへの関心は高い。学習内容を自分たちの生活と結びつけて考えられるようにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中での実体験を引き出し、授業に取り入れることで自分事として考えられるようにする。 ・具体的な資料や教材を提示したり、ICT機器を用いて映像や写真を提示したりすることで、興味をもたせ、知識の定着を図る。 	A	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し学習することで四則計算の技能は上達してきている。 ・文章問題を正しく読み取る力を伸ばしたい。また、単位の書き忘れなどの細かな間違いをなくしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、習熟度を確認しながら、練習問題に繰り返し取り組む。 ・図や教具を用いてイメージをもちやすくさせることで、問題理解を深められるようにする。 ・日々の授業の中で、解き終わった問題の見直しや確かめをすることの大切さを指導し、習慣付けられるようにする。 	A	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物が好きな児童が多く、新しく学ぶことへの関心は高い。 ・自ら課題をもち、その課題の予想を立てたり、問題を作ったりする力を伸ばしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の基本的流れや、興味・関心から問題を見出す流れをつくる。 ・予想や考察の型を示し、学習の基本を身につけさせられるようにする。 ・友達と意見を共有したり、選択肢を与えたりすることで自分の意見をもちやすくする。 	A	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの音を出しての学習に制約があり、基礎的な奏法を学ぶことや関心をもたせるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音を出さずに指遣いなどできることを多く取り入れ、苦手な児童には個別に支援する。 	A	
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心は高い。やりたい気持ちを表現するための時間の計画や先の見通しをもって取り組めるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、毎時間の課題の終着点を示す。 ・個別指導を計画的に行い、課題を仕上げられるように言葉掛けなども行う。 	A	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童が多い。 ・めあてをもって工夫したり、仲間と協力したりして技能を高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場の工夫をし、教えあいや伝え合いの機会を設け、意欲につなげられるようにする。 ・ふりかえりカードを活用し、めあてを立てることで、個別の課題に取り組んでいく。 	B	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を通し、登場人物の心情に寄り添って考えている児童が多くいる。より自分事として考えられるような力を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを友達と伝え合う中で、違いを認め、他者の思いを受け入れられるようにする。 ・ねらいを踏まえ、「あなたならどうする」と問い、自分事として捉えられるようにする。 	A	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら課題を設定することや情報を収集・整理をする力を身に付けることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の導入で、個別に課題をもたせる。 ・本やタブレット端末を活用し、個々の課題解決を図れるようにする。 ・地域の方々の協力を得て、活動の充実を図る。 ・まとめ方の型を示し、イメージをもちやすくする。 	A	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・歌やチャンツ、ゲームに意欲的に親しむことができている。 ・間違えを臆することなく、すすんで発音できるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師による手本を示すことで、活動を理解させる。 ・英語の発音にこだわらず、日本語での解答も受け入れ、学級全体で発音を繰り返すことで、安心して活動に参加できる雰囲気を作る。 ・ペア活動などを取り入れ、積極的に取り組めるようにする。 	A	

※自己評価について A・・・十分に達成できている B・・・達成できている C・・・あまり達成できていない D・・・達成できていない

令和3年度 第4学年授業改善推進プラン

府中市立若松小学校

教科	現状の課題	具体的な改善プラン	自己評価 (A B C D)	
			2学期	3学期
国語	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子や登場人物の気持ちを考えることはできるが、それを自分の言葉で表現する力の育成が必要である。 漢字の定着を図ることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容や課題を明確にし、授業の焦点化を工夫する。考えや意見の共有の時間の確保、発問の工夫をし簡単に答えられるようにする。 日常生活での使い方と関連させ、漢字の定着を図るようにする。 	B	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会問題への関心は高い。自分の課題として捉えることができる。 実際にどのような行動をするべきか自分から考え課題を設定する力はもう少し育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習と生活に関連させて、身近な問題として捉えさせ、課題と自分達にできることを明確にさせる。 ICT機器も活用し、友達と考えを共有し、自分の考えを表現させる。 	B	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎は身に付いている。内容が少し変わるとできないなど、今までの考えを応用する力の育成が必要である。思考面での育成も合わせて必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を使い、視覚的な教材を活用し、考えを目で見える形にするなど思考の手助けとする。 ICT機器を活用し、密にならないように友達の考えを共有できるようにする。 問題を解く時などに、友達に説明したり、説明を聞いた りする時間と場を確保する。 	C	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象への興味・関心が高く、与えられた観察・実験をすすんで行うことができる。 自ら課題を見つけ、予想や仮説をもとに実験をしたり、結果から考察したりする力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象との出会いを工夫し、焦点化し、みんなで問題を見つけ解決していく流れを作る。 発表や話し合い活動を通して多くの考えに触れ、共有できるようにする。 	B	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図をもって音楽表現をしようしたり、楽曲の特徴や曲想の変化を感じ取って積極的に聴こうとしている。 感染防止の観点からリコーダーは音を出さず運指練習が多かったため、表現の技能を伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> マスクを外さずに学習できる楽器で、感染防止を十分にしながら、表現の基礎と技術をつけていく。 	B	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 表したいことをあらかじめ考えることができる児童が多いため、自分のつくりたいものに合わせて、計画的につくる力を伸ばしたい。 高学年に向けて、基礎的基本的な技能を身に付け、様々な材料に触れさせていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> クロッキー帳を使ったアイデアスケッチを続けていく。 様々な材料や用具に関わる活動を取り入れ、自分の表したいことについて考える時間を十分に設ける。 	B	
体育	<ul style="list-style-type: none"> どの領域でも意欲的に取り組むことができるが、活動を工夫したり、運動の特性や魅力に応じて課題をもって取り組んだりする能力の育成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 動き方や運動する場、練習の仕方などを工夫し、共有化することで運動の楽しさや喜びを広げていく。 個人のめあてを意識することも重要視させ、技能の向上を図る。 	B	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 主人公の視点で自分なりに考えをもつことができる。 様々な角度から客観的に見たり、自分の考えに自信をもって答えたりする力は育てていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表しやすい問を作り、自分の考えを発表し、友達の意見を聞く中で違いを理解し、お互いを認め合う中で考えを深める。 	B	
総合	<ul style="list-style-type: none"> 様々な課題に対して関心を持ち、取り組もうとする気持ちがある。 自ら課題を設定すること、情報の収集・整理などの能力の育成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題設定のヒントや具体的な課題の提示をすることでどの児童も自分の課題を設定できるようにする。 インターネットや本、パンフレットなど様々な資料から情報を集められるようにし、友達との交流なども取り入れまとめていくようにする。 	B	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 様々な英語表現に親しむことは、ほとんどの児童ができた。自信をもって話したり、聞いたりする力を育てる必要がある。 英語を通して、外国の文化をもっと知りたいという意欲を持たせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ALTとの関わりやICT機器を活用を通し、児童に様々な英語表現を親しませたり、外国の文化に興味をもたせたりする。 児童での交流も取り入れ、英語を話したり聞いたりすることを自然とできるようにする。 	A	

※自己評価について A・・・十分に達成できている B・・・達成できている C・・・あまり達成できていない D・・・達成できていない

令和3年度 第5学年授業改善推進プラン

府中市立若松小学校

＜第5学年の実態＞				
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用に興味をもち、それを活用して主体的に学習活動に取り組むことができる。 ・体を動かすことが好きで、休み時間は学年で鬼遊びをして過ごしている。 ・意見交流を行い、それをノートに整理する際に項目別に分けるなど、ノートにまとめる力に個人差が見られる。 				
教科	現状の課題	具体的な改善プラン	自己評価 (A B C D)	
			2学期	3学期
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・長い文章を書くことを苦手とする子の割合が高いので、文章構成を意識させる必要がある。 ・自分の言葉で気持ちを上手に表現する力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長文を書くときは、文章構成を考えられるようなワークシートを活用する。自分の考えを言葉で表し、文章化していくときに書く順序を意識させるようにする。 ・語彙を増やし、少人数での話合いや、ホワイトボード等を使って意見を可視化できるようにしていき、自信をもって意見を言える環境を整える。 	B	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる学習、写真やグラフ、表から読み取る学習はできているが、用語に関する知識を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復習の時間を設けるほか、学習した用語を生活から探し出し、自分の生活と関連付けを意識させた授業を行う。 	B	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・小数のかけ算や小数のわり算などを正確に計算する力を育成する必要がある。 ・文章題において、文の内容を正確に読み取り、式を立てる力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルなどを活用し、計算力の定着を図る。 ・自分の考えを言葉や図、式、数直線などを用いて説明する活動を意識的に取り入れる。新しい生活様式を踏まえ、グループでの意見交換はホワイトボードに記入して掲示するなどを行って考えの共有化を図る。 	B	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験の結果を基に考察を行い、次の問題を見出し、新たな視点で事物・現象を捉えたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想、実験、結果（考察）など、思考の流れを分かりやすく表現できるようにノート指導を行う。また、自分で得た情報を整理し、主体的に問題解決できるように、考える時間や考えを共有する時間を十分に確保する。 	B	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の諸要素や構造との関りに気づき、特徴や曲想の変化を感じ取って聴けるようになった。さらに考えや感じたことを言語化する力を付ける必要がある。 ・表現活動を工夫して取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換やワークシートを使って感じたことを言語化する活動を引き続き行う。 ・表現活動は、感染防止対策を十分行いながら「箏」を中心に、身体活動も取り入れながら進める。 	B	
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品をよりよくしたいという意識はあるが、具体的な方法が分からず悩む児童が多い。作品を納得がいくまで、つくりきる力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んできた材料や用具と関わり、組み合わせる題材を取り入れ、最高学年に向けて思考の引き出しをつくる。 ・それぞれが興味がある分野を中心に自分の作品ができたという達成感を味わうことができるようにする。 	B	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と学習内容を関連させて考えることはできる。 ・手順よく実習することができた児童が多かったが、技術の向上のための練習がさらに必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識として習得したことや、技能として身に付けたことを実生活に取り入れ、生かしていく。 ・学んだことを何度も繰り返して習得できるような工夫を取り入れる。 	B	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を設定し、それを達成するためにはどのような練習が必要かを考えながら活動する力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入ではめあてを提示すると共に、個人の目標を考えさせる時間を確保する。 ・友達と関わり合う活動を確保し、アドバイスし合うことによって自分の課題を明確にできるようにする。 	B	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や登場人物の気持ちを想像し、自分の考えをもつことができるが、教材、授業を通して考えたことを、日常生活に生かしていく力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の日常生活に関わる資料を用意するなど、教材文をより身近に考えられるようにする。 ・自己を振り返る時間を確保するとともに、児童が自己を見つめやすいように一人一人にホワイトボードや、振り返りシートを活用するなど視覚化の工夫をする。 	B	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が課題を設定し、インターネットを使用して調べ学習に取り組めたが、調べる過程で生まれた新たな課題を見出し、追及したりする力を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台あるPCや大型テレビを活用し、情報収集の仕方、調べたことの具体的な追及を全体で共有をすることで、一人一人の考えの範囲を広げる工夫をする。 	B	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に身近なテーマでは、発表意欲も高く、多くの児童が発言することができたが、自分の思いまで表現できるような力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら自分の思いを伝えられるよう、ゲーム形式を取り入れるなど、活動を工夫する。 	B	

※自己評価について A・・・十分に達成できている B・・・達成できている C・・・あまり達成できていない D・・・達成できていない

令和3年度 第6学年授業改善推進プラン

府中市立若松小学校

教科	現状の課題	具体的な改善プラン	自己評価 (A B C D)	
			2学期	3学期
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習や教材文の朗読に熱心に取り組む児童が多い一方、字を書くのも読むのも苦手と感じる児童との個人差がある。 物語文の登場人物の心情や説明文の構成を読み取り、それを表現する力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く授業でどの児童も文章構成を考えられるように、ICTの付箋機能を使った指導法を取り入れたり、構成を視覚的に捉えられるようなワークシートを開発したりするなど、意図的な授業作りを進める。 文章を読むのが苦手と考える児童には、分かりやすい発問を心掛け、学習活動の流れについても丁寧に説明をする。また、読み取ったことを記述式でまとめる課題に対し、まずは自分でまとめ、小集団で吟味する過程を大切にする。 	A	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象や歴史に興味・関心が高いが、グラフや資料から読み取り、事実を基に自分の考えをもたせる力を高める必要がある。 一人一人の考えを共有し、考えを広めたり深めたりする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや資料を基に、事実を読み取る活動と、思考する活動を分けて考え、確認させ、自分の考えをもたせる工夫をする。 タブレット端末を活用し、一人一人の考えを共有する手だてとする。 	A	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算力に大きな差があるため、基礎的な練習問題を繰り返し解き、計算力を高める必要がある。 身に付けた知識を適切に使い、自力で課題を解決できるようにする必要がある。 文章から意図を読み取り、適切な表現で答える力を身に付けさせる必要がある。 図形の領域で、面積の求め方を考え、表現すること等、立式に至る過程を表現する力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を確認したり、練習問題を繰り返し解いたりする時間を定期的に設定し、習熟を図る。 自分で考え、集団で検討していく問題解決型学習を繰り返し行っていく。既習事項を活用し、自分の考えをもつこと、自分の考えを図や表、式、数直線等で表現すること、まとめや振り返りを自分の言葉でまとめることを大切にして指導していく。 問題文を区切ったり、線を引いたりしながら読み、少しずつ題意をおさえる。 図形の面積を考えるにあたり、式だけでなく図を描いたり、自分の考えをもとにペアやグループなどの小集団で話し合ったりする過程を充実させ、多様な考えができるようにする。 	B	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果から考察したことを表現し、深めていく力を伸ばす指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果から考察したことをうまく書けない児童については、一度学習問題に立ち返り、何を確認するための実験だったのかを確認してから書かせるようにする。 	B	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図をもって聴くことができるようになってきた。要素の聴き取りが苦手な児童に力をつける必要がある。 感染防止のため歌唱、リコーダーの学習が不十分な面がある。指導計画を組み替えたり、飛沫が出ない演奏活動を取り入れたりして、表現する力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 要素の聴き取り練習は、常時行っていく。 表現については、音楽づくりも含め、感染防止対策を行いながら「箏」を中心におこない、思いや意図をもって表現する力をつけていく。 	B	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 主題を表すために、具体的にどのような形や色、構成をすることを考え、表現する力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分がどのような表現にしたいかを考える段階から課題がある児童には、丁寧に個別指導を行う。思考のヒントになるように、簡単に考えを書きことができるワークシートを取り入れ、具体的なキーワードを毎回の学習の導入で取り入れる。 	B	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲は高く、生活と関連させて考えることもできるが、裁縫などの活動に苦勞している面があるので、技能を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手意識のある児童に対しては個別指導を続けながら、引き続き自分の生活と関連付ける楽しさを前面に出すことで、意欲の向上につなげる。 	B	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 基礎体力に個人差があるので、楽しみながら運動し、基礎体力を高める必要がある。 運動に苦手意識をもっている児童とそうでない児童との差が出てきているので、主体的に活動したり、活動を工夫したりする意欲を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分に合っためあてをもてるような学習資料を提供し、楽しく運動できるようにする。 意欲的に参加できるように運動の場や用具等を設定したり、ICTを活用して運動の仕方を学べる工夫をする。 	B	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の登場人物の気持ちを想像し、どうすべきか考えることができる。さらに、それを行動に移せるようにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事象を取り上げ、自分と登場人物の関わりを実感できるように授業展開をする。 	B	
総合	<ul style="list-style-type: none"> 収集した資料の中から必要な情報を選択したり、引用した文をそのまま載せるのではなく、自分の考えを加えてまとめたりできるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科と関連付けて、資料収集力や資料を読み取る力を高め、取捨選択の仕方を学ぶ機会を多く設定する。 課題を明確にし、その解決のためにはどうしたらいいのか見通しをもたせるようにする。 	A	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識に個人差があり、単語のみで応答する児童に対し、できる限り学習したセンテンスで応答できるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の生活に結び付いた自然な状況設定の中で、英語での会話を行うことができるようにする。 	B	

※自己評価について A・・・十分に達成できている B・・・達成できている C・・・あまり達成できていない D・・・達成できていない